

## NIE実践における地図活用

北区立東十条小学校 片岡 大昌

### 1 はじめに

新小学校学習指導要領では、地図や地球儀、統計、年表などの資料を活用する力を育てることに加え、新聞を学習活動の中に取り入れることの重要性が示されている。

新聞は活字で情報を伝える媒体として、非常に優れたツールである。さまざまな分野における情報をまとめて、的確、かつ簡略に伝えている情報媒体は他にはないであろう。それだけに教材として活用できる可能性は無限である。また、地図も重要な情報が詰まっているツールであると言える。世界、日本各地の位置関係を視覚的に捉えられるだけでなく、各国、各地域の面積、人口、産業やくらし等、さまざまな情報が載せられている。地図もまた、教材としての可能性は無限である。

本校では、NIE（新聞を活用する学習）の研究と実践に取り組んでいることから、新聞と地図を合わせて活用した学習実践とその可能性について紹介したい。

### 2 「新聞タイム」における地図活用

本校では、15分間の朝学習の時間を活用して、週に一回「新聞タイム」を実施している。新聞タイムでは、子どもたちがそれぞれ関心をもった記事を選んでスクラップし、その記事から学んだことや、感想を記録している。また、教師側が子どもに読ませたい記事を意図的に選んでワークシートを作成し、わかったことや感じたことを記入させることもある。

この新聞タイムで『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』（以下、地図帳）が大活躍するのである。昨年度の1年間は、東日本大震災関連の記事が、毎日大きく掲載されていたので、そうした記事をスクラップする児童も少なくなかった。記事の中でたびたび出てくる「東北地方」「福島」「宮城」「気仙沼」…。活字として出てくる地名を地図帳で確認することによって、位置や広さを知識として習得できる。「原発から20km圏内の住民に避難勧告」という見出しが目に入ったなら、地図帳を開き、原発の位置と20kmの距離を東北地方のページと日本全国のページの両方で確認することで、自分たちがくらす東京都との位置関係や距離がより正確に把握できるだけでなく、子どもの体験から記憶している知識と関連づけられることもある。「猪苗代湖は、この間旅行で行ったよ!」という具合にである。

また、6年生の学習としては、社会科の国際理解単元と関連づけた新聞タイムもある。スクラップをする際に、「『国際』関連記事を切り抜こう」という課題を加えることで、単元学習と結びつけることができる。新聞には国際面があることを助言すれば、この課題は難なく達成できる。「EU」「ASEAN」「TPP」などの用語も、地図上で参加する国名を確認していくことで理解が確実に深まる。ただし、国際面は内容が小学生には難しい場合が多いので、国際関連記事が国際面に限らないことを示唆することも重要である。ときにはスポーツ欄の国際試合や海外の選手に注目させてもよい。その際も地図帳は手放さない。「イギリスって意外と小さな国なんだな」「韓国って大韓民国？九州からすぐ近くだね」という声が出てくることは、活字だけでは習得しにくい知識が身につけている証しである。



### 3 国際理解單元における活用

新聞タイムの中で、国際理解と関連づける方法の他に、社会科単元「世界の中の日本」の学習指導計画の中に、地図帳と新聞を有効活用する時間を位置づける方法もある。

小単元「世界の未来と日本の役割」では、外国を援助し、活躍する日本人や日本の組織が中心に紹介されるが「世界の人々との協力」という観点で考えると、日本が海外から援助を受けている事実を知ることが重要である。そうした学習をする際、活用できたのは、やはり震災に関する新聞記事である。

2011年5月の毎日新聞で、「世界の善意ありがとう」という見出しの記事がある。その記事では、東北のどの地域にどこの国が支援に来たか、救援隊の人数、支援物資の内容などが紹介されている。

この記事を読むだけでも、いかに世界中から日本に支援が寄せられているかを理解することができるのであるが、「世界中から」の部分子どもたちがより強く感じられるために、またよりインパクトのある学習ができるために必携であるのが地図帳である。

記事を見ながら、地図帳の「世界の国々」のページ（拡大コピーしたものがさらに使いやすい）と照らし合わせ、支援に関わった国の位置に小さなカラーシールを貼っていく。すると、「震災支援世界地図」ができあがる。

「世界のあちこちから、人やものがやって来たんだ」ということが一目でわかる。この単元の学習問題である「世界の人々との協力」を視覚的に捉え、感じることができるのである。

地図帳を活用することによって、さらに学習が深まる可能性がある。支援に来た国をもう少し詳しく地図帳で調べてみると新たな発見がある。例えば、西アフリカの載っているページを開くと、野口英世のイラストが見つかる。歴史学習の上でも重要な人物であるが、過去にも世界に貢献した人がいたことが思い出される。国の異なる人々が協力し合ってつくってきた世界があり、今現在でも世界が協力し合っていることを改めて知ることができる。地図帳を開くことによって、さまざまな知識を吸収することができるのである。



① ヨーロッパ編 楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版 p.51

### 4 おわりに

子どもたちが新聞を読むとき、手放せないものがある。国語辞典である。わからない言葉があったとき、意味を調べ、より正確に記事の内容を理解する。もう一つ手放せないものがある、それが地図帳である。記事の中に出てくる地名、国名を名称のみの知識で終わらせず、地図で位置や広さなどを調べることにより、一層深く、確かな知識が身につく。新聞、辞典、地図、この三つで子どもたちは多くを学ぶと、私は考えている。